

巻頭言

第74回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第74回日本医学放射線学会総会 会長
東京大学大学院医学系研究科放射線医学講座 教授
大友 邦



大友 邦 先生

2015年4月16日(木)～4月19日(日)の4日間、パシフィコ横浜において、第74回日本医学放射線学会総会を開催いたします。第71回日本放射線技術学会総会学術大会、第109回日本医学物理学学会学術大会、2015国際医用画像総合展も同時に開催され、今年も2万人を超える参加者が見込まれています。

メインテーマは「Be Cool and Practical」としました。分子生物学を中心とする医学の目覚ましい進歩と、医療技術・機器の絶え間ない進化の双方から大きな影響を受けることは、放射線医学の大きな特徴であり、時代と状況に応じた立ち位置を求められる所以でもあります。このような背景と特徴を踏まえて、画像診断学・放射線腫瘍学・核医学を問わず放射線医学の全ての領域で日常臨床の要望に応えつつ進化し続けるためには、冷静に現状と近未来を見据え、実際的に対処することが最も肝要と考えています。

プログラム編成では、特に一線病院に勤務されている中堅・若手の方々に配慮した“参加者に優しい大会”をめざしました。そのために、大会の根幹となる一般演題(口演、電子ポスター)と教育講演を中心に、様々な分野の最新の研究成果から、放射線科医として必要な情報を得る場として、特別講演、シンポジウム、Special Focus Seminar、招聘講演(Oversea Lecture, Pathology Update, Radiology Update)を企画しております。

1. はじめに

近年の放射線医学の進歩は目覚ましく、診断学、核医学、放射線治療、インターベンショナルラジオロジー(IVR)の4分野で、類を見ない急速な発展を遂げてきました。本総会は毎年春に開催される放射線医学全般の学術講演会であり、全国の放射線科医と関連分野の医師・技師・研究者が一堂に会し、多方面から最新の研究成果を発表し、討論する場でもあります。本総会で発表される研究成果は、社会的に注目を集め、高く評価されています。医学の領域においてますます重要性が高まっている放射線医学の地位をより強固なものとするのが、我々に課せられた今後の使命と考えています。

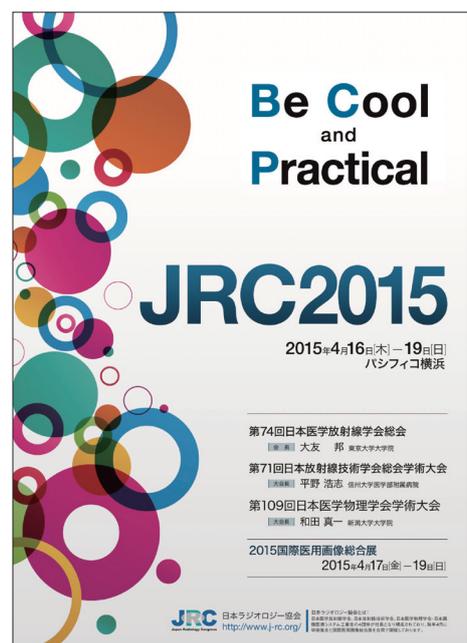


Fig.1 JRC 2015 ポスター

今総会の主題は“Be Cool and Practical”としました。分子生物学を中心とする医学の目覚ましい進歩と、医療技術・機器の絶え間ない進化の双方から大きな影響を受けることは、放射線医学の大きな特徴であり、時代と状況に応じた立ち位置を求められる所以でもあります。このような背景と特徴を踏まえて、画像診断学・放射線腫瘍学・核医学を問わず放射線医学の全ての領域で日常臨床の要望に応えつつ進化し続けるためには、冷静に現状と近未来を見据え、実際的に対処することが最も肝要と考えています。

2. 会期ならびに会場

2015年4月16日(木)～4月19日(日)の4日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜において、第74回日本医学放射線学会総会を開催いたします。2009年の第68回大会から会期が4日間となっておりますが、御自分の都合に合わせて、密度の濃い学会参加としていただければ幸いです。

基本的レイアウトは第73回総会を踏襲しておりますが、一般演題(口演)でのスライドをCypos登録していただき、より多くの参加者が閲覧できる環境をめざしております。またWiFiエリアの拡充を始めとして、充電用電源の充実、CyPos閲覧会場のディスプレイの大型化など参加者にとって、有益かつ便利な“心地よい学会”を目指しております。

3. 参加登録

参加登録費は会員13,000円、非会員20,000円、学生1,000円です。

4. プログラム

発表形式は、一般演題(口演)、一般演題(電子ポスター)、教育展示、実機展示発表の4つに分けられます。

今回は、日本医学放射線学会、日本放射線技術学会および日本医学物理学会の合同特別講演では東京大学地震研究所平田直教授に「予想される首都圏の震災と地震波トモグラフィーで探る巨大地震の姿」というタイトルでお話いただきます。また合同シンポジウム1「被ばくの見える化」で

は、東日本大震災時の福島原発事故以来、特に関心が高まっている医療被ばくの適正化について、欧米の専門家を交えて我が国でのあり方を展望します。同2「放射線治療におけるチーム医療」では、医師、技師、医学物理士、看護師の連携のあるべき姿を明らかにします。同3「放射線医療における自動化技術にどう向き合うのか?」では、診断、治療それぞれの領域に導入が進む自動化技術の現状と問題点について議論します。

日本医学放射線学会としては、「錯視」と「福島の今」をテーマとした2つの特別講演と、「ロボット外科最前線」、「肝腫瘍に対する塞栓術の多様化」、「食道癌の集学的治療戦略」、「多様化する悪性脳腫瘍治療戦略」、「がん特異性蛋白を認識するイメージング技術と治療応用」、「放射線照射後の画像診断」、「造影剤のリスクマネジメント」、「画像診断の混沌-到達点と課題」、「Where are you from? -由来臓器を考える」の9のシンポジウム、さらに「がん化学療法 of 最近の進歩」と「国際化を目指して-コミュニケーションから論文化まで」のSpecial Focus Seminarを企画しました。

イメージインタープリテーションでは、解答者としてアメリカ、アルゼンチン、トルコそして我が国のエキスパートを招聘し、合わせて教育講演をしていただきます。RSNA, ARRS, ESR, DRG, KRS, SFR, SIRMとの交流計画に基づくOversea Lectureとともにバングラデシュとオーストラリアの先生にもご講演いただきます。



Fig.2 Turkish Congress of Radiology 2013 (Antalya Nov 8, 2013) Image Interpretation Session 参加予定の Dr.Demirと会場での記念撮影

Pathology UpdateとRadiology Updateと銘打った招聘講演では、8名の病理医と5名の放射線科医にそれぞれの領域の最新知見をご紹介します。学会教育委員会企画による38コマの教育講演とともに、専門医制度の根幹をなす指導者講習も2コマ予定しております。研修医セミナー（画像診断8コマ、放射線治療3コマ）、学会初日のCTコログラフィー講習会も例年どおり開催いたします。

学会に先立って、「健やかな毎日のためにー痛い痛い飛んでいけ！」をテーマとした市民公開講座を、3月28日（土）に東京大学医科学研究所第一講堂で開催いたします。各領域エキスパートによる、「なぜ痛むのか？：心を癒すアプローチ」、「漢方で治す：からだの痛みと心の痛み」、「切らずに治す：脊椎圧迫骨折」、「手術で治す：椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄・椎間板変性症」の講演を予定しております。



Fig.3 東京大学放射線医学講座同門会 2014

5. おわりに

多忙な毎日を過ごされ、まとまって勉強する時間を持たない会員の方々に、教育講演で日常臨床に役立つ知識の整理を、合同企画で放射線診療のさまざまな役割の検証を、そしてシンポジウムなどの特別企画で最新の知識をリフレッシュしていただくべく、充実した学会になるよう全力で準備を進めております。

多くの方々のご参加を心からお願いする次第です。

